

「全ゲノムシーケンス情報と臨床情報を基にした新規クラスタリング手法の開発の開発に関する研究」について

筑波大学附属病院つくば予防医学研究センターでは、表題の観察研究を実施しております。本研究の概要は以下の通りです。研究の対象に該当する可能性がある方で、診療情報や以前にご協力をいただいた研究資料の利用または提供を希望されない場合は下記の問い合わせ先におしらせください。

1) 本研究の目的

筑波大学ではヒトの全ゲノムシーケンス情報を基にした遺伝性疾患の早期発見を掲げ、共同研究として東北大学東北メディカル・メガバンク機構と連携し、全ゲノム解析データの施設間での比較検証を行うとともにヒトの全ゲノムシーケンス情報から疾患の発症や重症化に関連する遺伝子バリエーション（遺伝子の変化）の同定を試みる解析を実施しております。より具体的には、疾患と関連する可能性が高い、遺伝子変異の部位のマッピングの作成と、次元圧縮技術を応用したプライバシーに配慮したデータの移送と解析の実用性の検討を行います。

近年のゲノム情報から疾患の診断や重症化の予測に役立てることを目指した研究の促進のために、データの集積や活用技術の確立とともに、慢性疾患の診断や重症化を予測し、疾患の重症化メカニズムを明らかにすることで症状を早期診断、早期治療により症状を和らげることができるようになると期待しています

。

2) 研究対象者

2018年1月1日から2021年12月31日までに、筑波大学あるいは東北大学でゲノム解析を実施された方
対象数：全体で8000例を予定（筑波大学では100例）

全ゲノム解析研究へご協力をいただいた方へ

3) 研究期間：倫理委員会承認後～2030年12月31日まで

4) 解析の方法

複数の研究機関がもつヒトの全ゲノムシーケンス情報を基にした遺伝子バリエーションの比較を行います。すでに得られた全ゲノム配列の情報と研究で収集された症状のデータを比較し、疾患と関連する可能性が高い、遺伝子変異の部位のマッピングの作成と、次元圧縮技術を応用したプライバシーに配慮したデータの移送と解析の実用性の検討を行います。

5) 情報の項目

全ゲノムシーケンス情報、疾患名などの臨床データ

6)情報の提供について

利用する情報は、ゲノム解析データおよび提供者の有する症状のみとなり、氏名、住所、電話番号などの個人情報はふくまれません。検体識別は研究番号を使用します。データの取り扱いは出入りを記録する外部との接触を制限した研究区域内でのみ行い、情報へは本研究の研究者をのぞいて閲覧は許可されません。研究成果は国内外の学会やデータベースなどで発表を予定していますが、統計処理を行なった分析データのみ公表され、その際に個人を特定されるような情報は利用いたしません。また、本研究では統計処理をした解析のみを目的とし提供者個人での検討を行わず、また研究者は提供者の限られた情報しか閲覧できないため、個人への解析データ返却はできません。

7)研究資金などについて

科学技術振興機構および筑波大学からの公的な研究費によって研究を実施します。本研究は、製薬会社などの企業からの研究資金の受け入れはありません。

全ゲノム解析研究へご協力をいただいた方へ

8)情報の管理について責任を有する者

筑波大学附属病院つくば予防医学研究センター 右田王介

9)研究機関名および研究責任者名

筑波大学医学医療系 教授	西山博之
東北メディカル・メガバンク機構 教授	荻島創一

10) 本研究へ情報提供を希望されない場合

これまでに収集した検体を用いた解析を実施します。ご自身のデータが研究に使用されることを希望されない場合には下記にお申し出ください。倫理委員会承認後、承認日から1ヶ月まで申し頂ければ解析開始前に解析の対象から取り除きます。その後も、申し出があれば、随時、以後の解析から省きます。ただし、すでに各研究機関において個人の対応表が廃棄されている場合に個別のデータの照合ができず削除が行えない場合や、意思表示の時点で既に発表された情報（統計データなど）についてはご希望に添えない場合もございます。

11) 問い合わせ連絡先

データの提供などについては、検体を提供した研究計画およびその施設の担当へお問い合わせください。本研究プロジェクトに関する連絡あるいは相談については、下記にお問い合わせください。ただし、個別の医療へのご相談や個別の解析結果についてはお答えできない場合があります。

<お問い合わせ先>

筑波大学附属病院 つくば予防医学研究センター

担当： 右田王介

住所： 茨城県つくば市天久保2-1-1

電話： 029-853-4205（平日9時～16時）